

04 北陸の鯨類骨出土遺跡

平口哲夫(金沢医大・人文)

Archaeological sites with cetacean remains in the Hokuriku District, Central Japan.
Tetsuo Hiraguchi (Kanazawa Medical University)

北陸の鯨類骨出土遺跡については、鯨類とともに水域環境と動物遺体組成の両観点から検討したことがある(平口, 1992)。今回は、その後発見の5例を加えた18遺跡について、鯨類骨の出土状況を中心に再検討するものである。

北陸3県(福井・石川・富山)における縄文時代から平安時代までの動物骨出土遺跡49例(福井7, 石川30, 富山12)のうち、18遺跡(福井1, 石川11, 富山6)から鯨類骨が出土している(金沢市米泉遺跡は、鯨骨製品のみ)。すなわち、北陸の鯨類遺跡率は36.7%、石川・富山両県に限れば40.5%($17 \times 100 / 42$)となる。この数値は、演者が算出した国内ならびに東アジア諸地域の鯨類出土率のなかで最高位を占めている。このことは、縄文時代以来、北陸、特に能登半島・富山湾沿岸の人々が鯨類資源に恵まれ、これを盛んに利用していたことを示しているといえよう。

真脇遺跡出土の多量イルカ骨についての動物考古学ならびに民族考古学的研究は、縄文時代イルカ漁を立証したのみならず、本地域がいくつかの捕鯨起原地のうちの一つをなす可能性をも示唆している。しかし、鯨類骨の多量出土例のみが鯨類考古学的に重要な意味をもつわけではない。富山市北代(きただい)遺跡における縄文時代中期掘立柱建物の柱穴から出土した鯨骨は、たった1個の椎骨破片ながら興味深い問題を提起している(富山市教委, 1997・1998)。このような単独出土例をも含めて鯨類骨出土遺跡を類型化し、相互関係を検討することによって、この地における鯨類と人間との深い関わりがいつそう明らかになるものと考えられる。



真脇遺跡と真脇湾, 1982



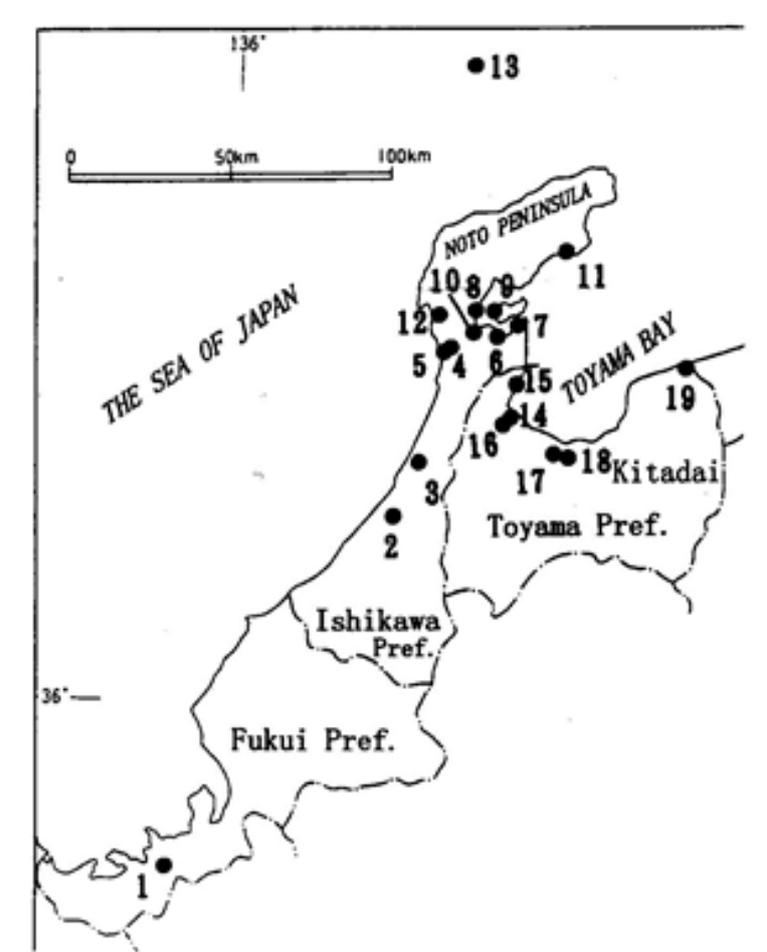


図 北陸における縄文～平安時代の鯨類骨出土遺跡の分布

表 北陸の鯨類骨出土遺跡（縄文～平安時代の動物遺体出土遺跡から抽出）

遺跡名	所在地	主要時期	近辺の水域	主要水産動物
1 鳥浜貝塚	福井県三方町	縄文前期	三方湖	淡水産
2 米泉遺跡	石川県金沢市	縄文後・晩期	伏見川中流	
3 上山田貝塚	石川県宇ノ気町	縄文中期	河北潟	淡水産
4 堀松貝塚	石川県志賀町	縄文中期	福野潟	汽水産
5 神代貝塚	石川県志賀町	縄文中期	福野潟	汽水産
6 赤浦貝塚	石川県七尾市	縄文中期	七尾市南湾・赤浦潟	鹹水産
7 三室福浦遺跡	石川県七尾市	縄文晩期	七尾南湾	
8 木ノ浦遺跡	石川県中島町	縄文前期～古墳	七尾西湾	
9 半ノ浦遺跡	石川県能登島町	縄文前期	七尾西湾	鹹水産
10 三引遺跡（貝塚）	石川県田鶴浜町	縄文前期	七尾西湾	鹹水産
11 真脇遺跡	石川県能登町	縄文前～晩期	内浦（富山湾口部）	鹹水産
12 舳倉島シラスナ貝塚	石川県輪島市	古墳	日本海	鹹水産
13 朝日貝塚A地点	富山県氷見市	縄文前～後期	富山湾・十二町潟	鹹水産
14 大境洞穴遺跡	富山県氷見市	縄文中期～弥生	富山湾	
15 十二町潟排水機場遺跡	富山県氷見市	縄文前～晩期	富山湾・十二町潟	
16 小竹貝塚	富山県富山市	縄文前期	神通川河口・放生津潟	汽・淡
17 北代遺跡	富山県富山市	縄文中期	神通川下流	
18 境A遺跡	富山県朝日町	縄文中期～晩期	富山湾	